4大誤解をあらかじめ知っておこう！

❶ ネット情報、うのみは危険！

治療にあたり、がんの学習をすることは大事なことです。
しかし、ネット上はセンセーショナルな話が拡散しやすいため、ネット検索では、極端な話ばかりが目に入って落ちこんでしまいます。なるべく国立がんセンターや公的機関の信頼できるサイトを見ましょう。





より具体的な情報を知るには、ご自身の主治医や看護師をまず頼りましょう。
全国にある「がん相談支援センター」では、病気やお金のこと、不安な気持ちなど幅広い相談と情報の提供を無料で受け付けていますのでぜひ活用しましょう！

（詳細は p.24 信頼できる情報源と相談先 をご参照ください。）

❷ 標準治療＝平凡な治療ではない

標準治療とは、膨大な数の臨床試験をくぐり抜け、効果もリスクも検証した一番有効な治療という意味です。「標準治療＝全員が画一的な治療＝平凡な治療」というイメージを持つのは間違いです。
一方で、先進医療や治験などは進んだ治療のように聞こえますが、効果や副作用が検証されておらず、特に自由診療には明らかに効果がないものも数多くありますので要注意です。
日本では、保険適用の「標準治療」が最善の治療法です。

	標準治療	先進医療	治 験	自由診療
有効性の証明	○	△	△	×
副作用の確認	○	△	△	×
個人費用負担	保険適用	自費＋保険	無償	全額自費

❸ 抗がん剤だけはやりたくない！？

抗がん剤と聞くと、「毒だ」「嘔吐が大変だ」という暗いイメージを持たれている方も多いと思いますが、いずれも大きな誤解です。
標準治療で抗がん剤が利用されるのは、はっきり治療効果があらわれ、結果として長生きする確率が高まることがわかっているためです。
また、吐き気などの副作用を抑えるための対策（緩和ケア）も進み、通院しながら抗がん剤治療を受ける場合が増えています。昔のイメージに引きずられず、進歩した治療をよく理解した上で判断しましょう。

❹ ステージⅣ＝余命数ヵ月と誤解しない

ステージⅣ（ステージ4）は、末期がんとは異なりさまざまな治療法が残されています。医療の進歩により、その選択肢もどんどん増えています。また、生存率や余命はあくまで目安で、実際は個人差が非常に大きいものです。余命宣告されても10～20年と生きられる人も少なくありません。ステージⅣという言葉に振り回されないようにしましょう。



怪しい治療の見分け方



大須賀 覚 先生
アラバマ大学 バーミンガム校 助教授

大須賀先生の
ブログはこちら→

世間にはがんに効くとうたう治療や民間療法が無数に存在します。それらの中には詐欺的なものも含まれ、被害にあう方が後を絶ちません。専門医が見ればすぐに怪しいと判断できますが、一般の方は見抜くことが難しいものです。ここでは、怪しい治療を見抜くための7つのポイントをご紹介します。

1.「何のがんにでも効く」
どんなに効果の高い薬でも、全てのがんに効くものはありません。

2.「個人の感想が根拠」
個人レベルの感想は不正確。それを根拠にするのは、明確な効果の証明がないことを示します。

3.「単純な治療方法」
○○を食べるだけ、温泉に入るだけ。そんな単純なことで治るなら、誰も困っていません。単純過ぎる話には注意。

4.「天然由来」
天然由来なら効果が期待できるわけではありません。

5.「極端な宣伝文句」
「がんが劇的に消えた」など。縮小させるだけでも簡単ではないので、うま過ぎる話には注意が必要。

6.「免疫力をあげる」
免疫力という表現は科学界では使わない曖昧な言葉で、これが出ると非科学的な治療法であると疑います。

7.「陰謀論」
「医師／製薬会社の陰謀で、この薬は広がっていない」など。本当に効くのであればデータを示せばよいだけです。

©2021 一般社団法人がんと働く応援団, All rights reserved.